令和３年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

岡山西商工会地域経済動向調査
報告書

令和 3 年 11 月

岡山西商工会

目次

第１部　岡山市・岡山市北区の経済概況 2

１　地域の稼ぎの構造 2

（１）地域内産業の生産分析と基盤産業 2

（２）産業別収支 7

（３）影響力と感応度から見た地域産業 9

（４）地域産業の競争力 11

２　地域に来る人の動向 14

（１）どこから観光に来ているか 14

（２）どこから買い物に来ているか 16

（３）集客力の現状 18

第２部　岡山西商工会エリアの経済動向、特徴とビジネス機会 20

１　商工会エリアの経済動向 20

（１）地区別人口・世帯数 20

（２）人口予測と市場動向 21

２　商工会エリアの特徴とビジネス機会 24

（１）事業者数・従業者数 24

（２）推定市場規模 26

（３）小売吸引度指数 27

（４）地区別の事業者動向とビジネス機会 28

第１部　岡山市・岡山市北区の経済概況

第１部では、岡山西商工会エリアを含む岡山市及び岡山市北区の地域経済について、「産業」と「人流」の２つの視点から分析し、当地域の特徴を概観する。

１　地域の稼ぎの構造[1]

（１）地域内産業の生産分析と基盤産業

岡山市の産業構造について、地域経済への貢献度（①生産額、②付加価値額、③被用者所得）を生産面から分析する。さらに、特化係数を用いて地域の強みとなっている基盤産業を把握する。

①生産額

地域内産業が生産又は販売した生産額の総額は４兆 9020 億円。３次産業が全体の 71%を占めていることは、２次産業が優位な「ものづくり県」岡山において当地域の大きな特徴となっている（図１，図２）。

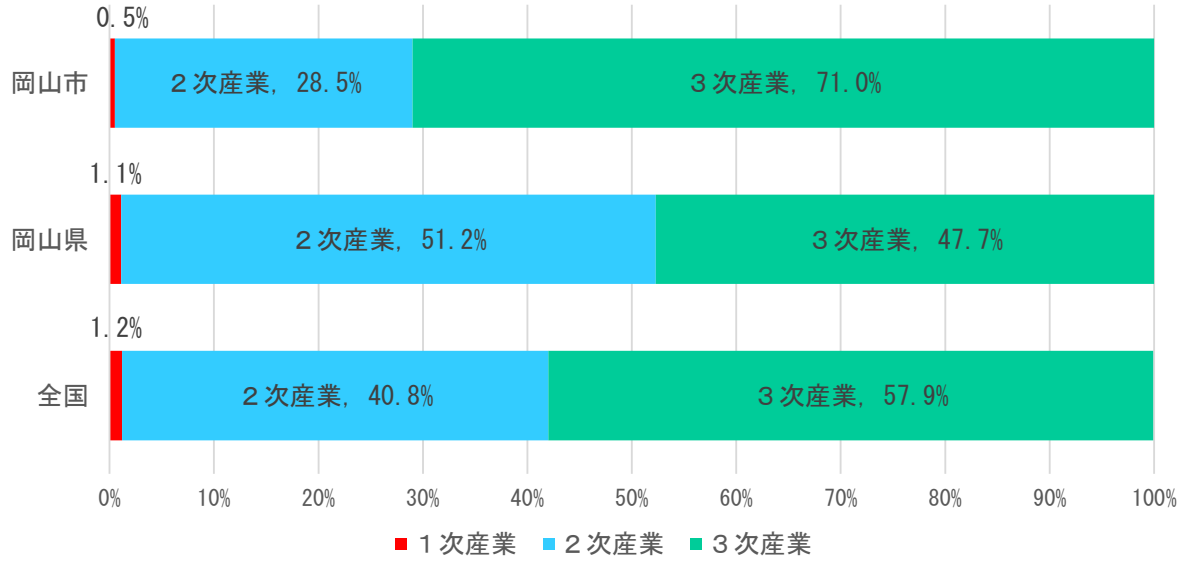

図１　生産額の産業構成

[1] 出典：本項の分析で用いたデータ及び図表は、「RESAS（地域経済分析システム）地域経済循環マップ－生産分析（2015 年），産業構造マップ－全産業（2016 年）」をもとに本会作成。

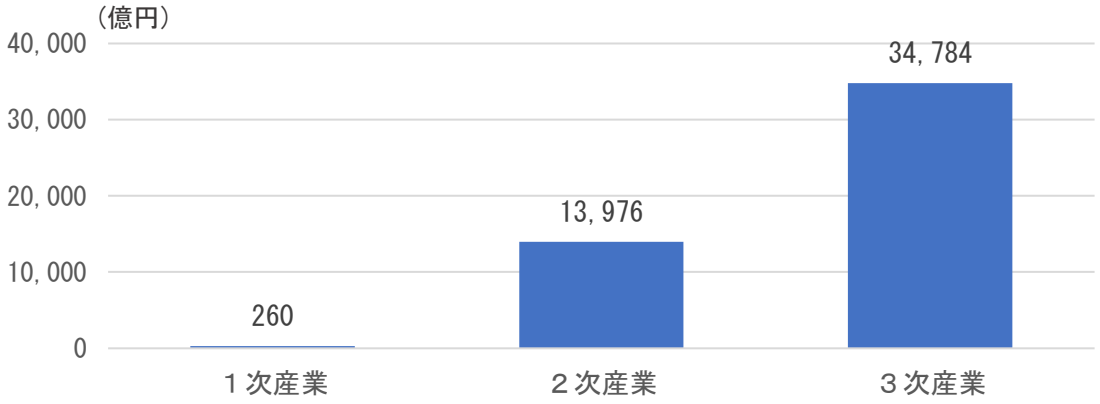

図２　地域内産業の生産額

従業者一人当たりの生産額は、３次産業が約 1,200 万円に対し２次産業が約 1,900 万円。労働生産性では２次産業が３次産業を上回っている（図３）。

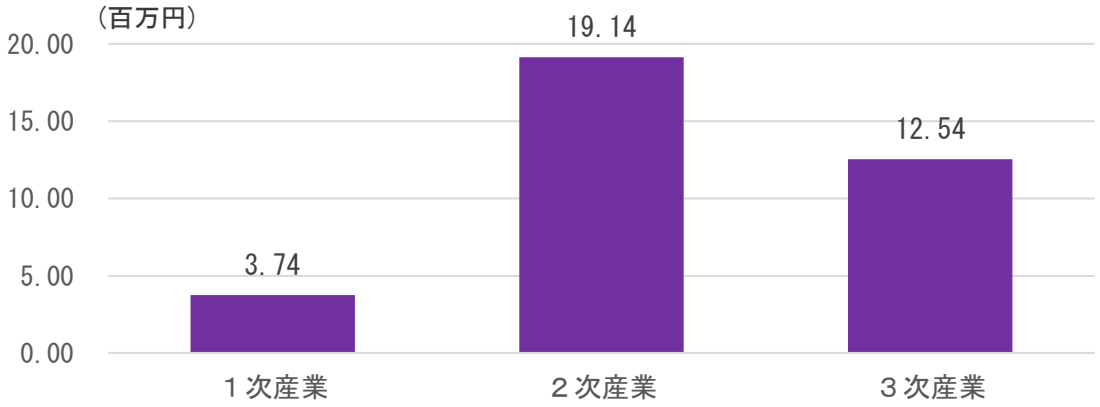

図３　産業別一人当たり生産額

②付加価値額

付加価値額とは、地域内に所在する事業所が事業活動を通じて新たに生み出した価値を指し、次の計算式で表される[2]。

付加価値額＝売上高（生産高）－商品仕入高－材料費－外注加工費

地域内産業が生み出した付加価値額の総額は 2 兆 9116 億円。３次産業が全体の 81％を占め、地域経済の稼ぎの主役を担っていると言える（図４，図５）。

[2] 経済センサスにおける「付加価値額」とは計算方法が異なる。

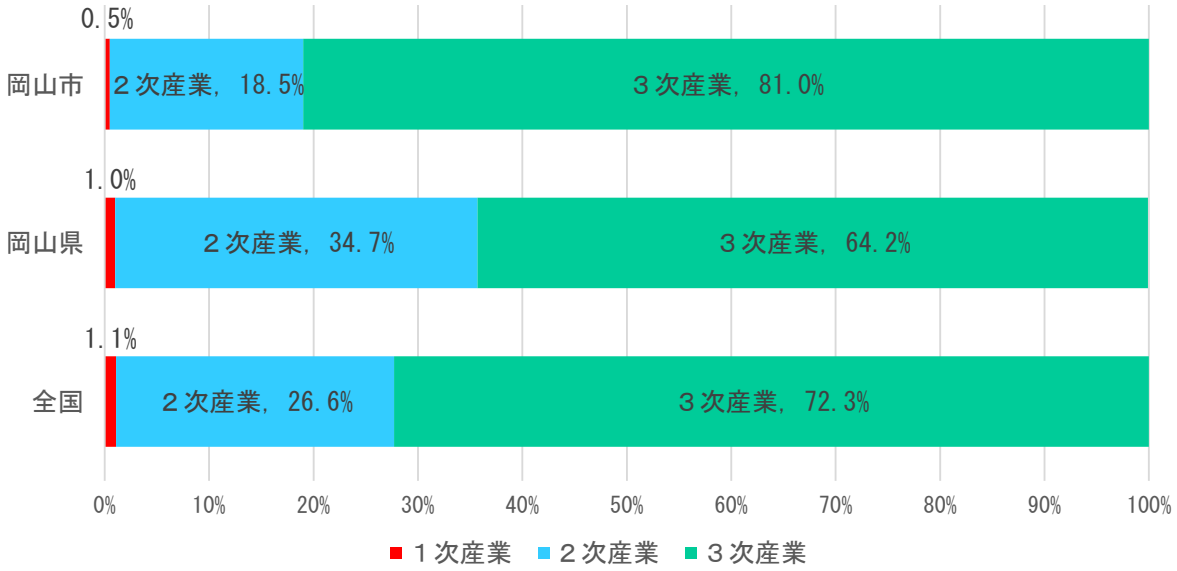

図４　付加価値額の産業構成

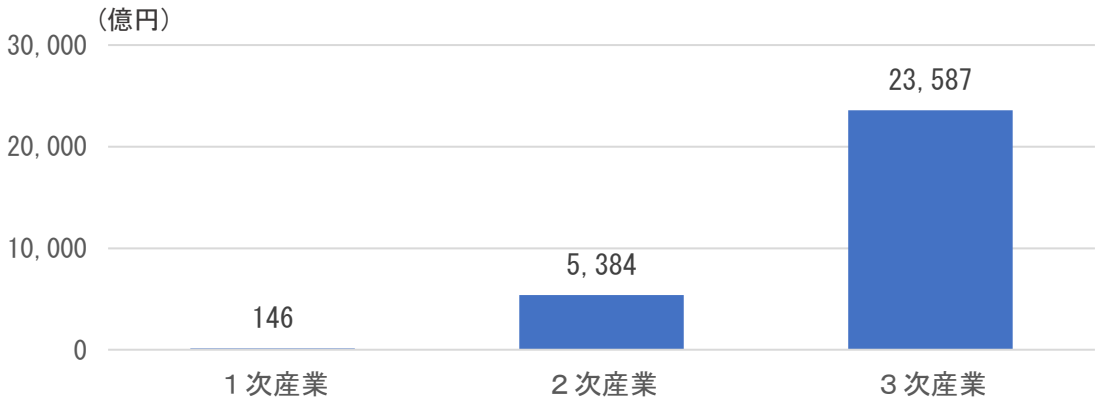

図５　地域内産業の付加価値額

従業者一人当たりの付加価値額は、２次産業が 737 万円、３次産業が 850 万円で、付加価値労働生産性で見ると３次産業の効率が最も高い（図６）。

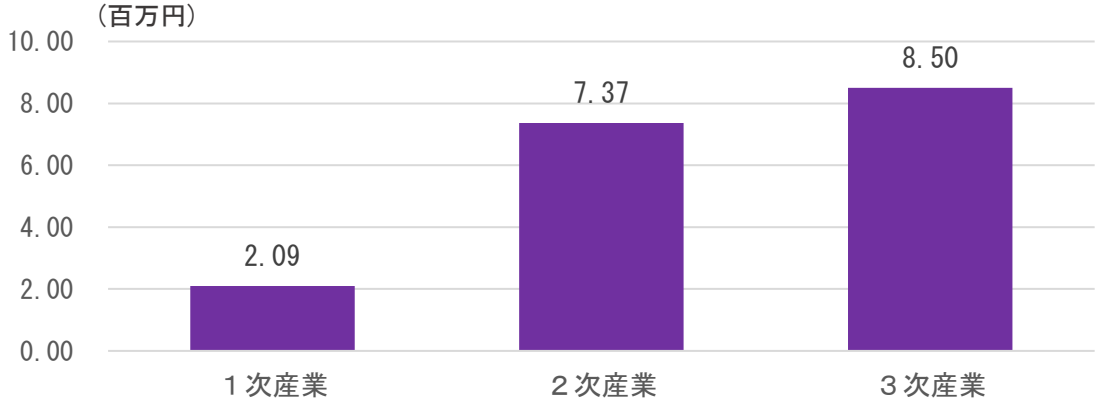

図６　産業別一人当たり付加価値額

③雇用者所得

雇用者所得とは、民間企業や行政等において雇用されている者に対して、労働の報酬として支払われる現金、現物の一切の所得を表す[3]。

地域内産業が生産活動により生み出した付加価値のうち、働いた人へ分配された総額は1兆6304億円。３次産業が全体の約８割を占め、労働経済においても３次産業は当地域の基盤となっている（図７，図８）。

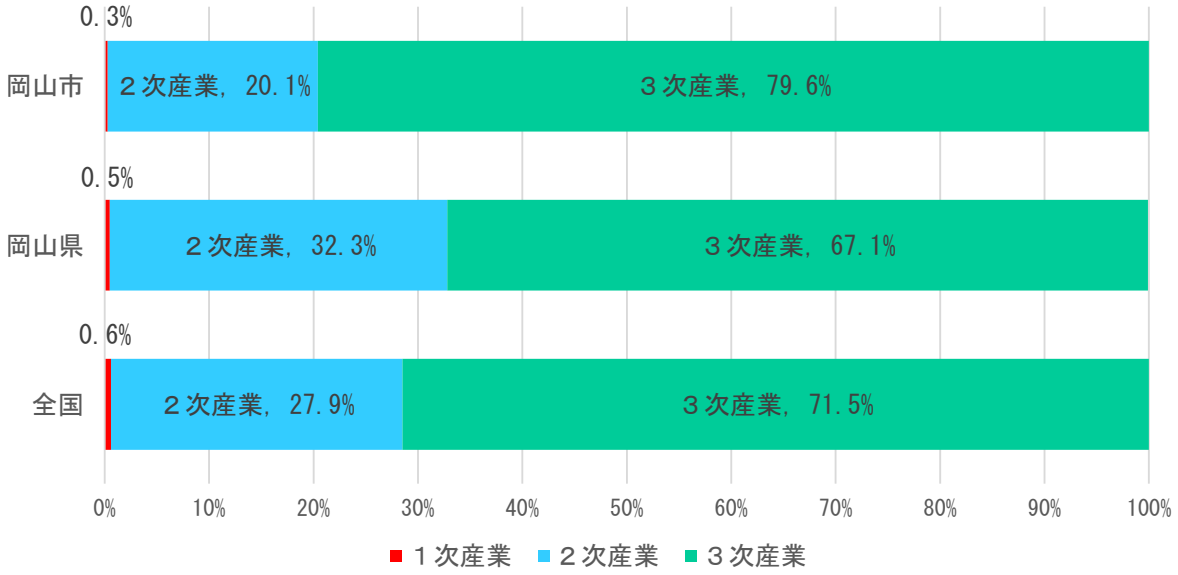

図７　雇用者所得の産業構成

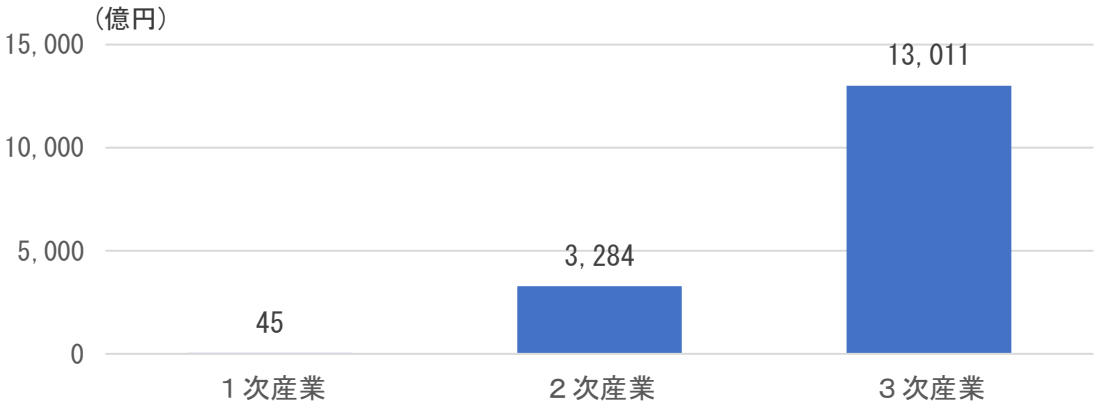

図８　地域内産業の雇用者所得

[3] 被用者への分配額。雇主の支払いベース。役員報酬や退職金、社会保険料の雇主負担分も含まれる。個人事業主の所得は含まれない（営業余剰となる）。

従業者一人当たりの雇用者所得は、１次産業と２次・３次産業の間に顕著な開きが見られる（図９）。

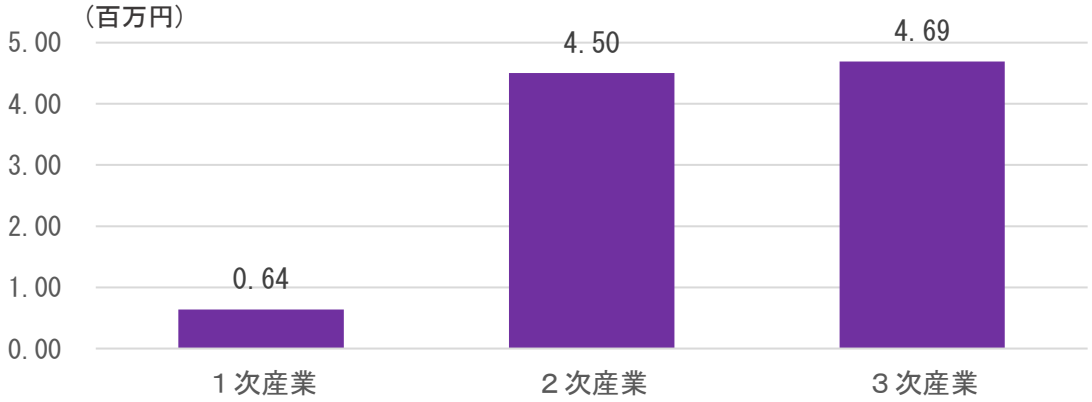

図９　産業別一人当たり雇用者所得

特化係数による基盤産業の把握[4]

特化係数とは、産業の相対的な強みを見る指数で、地域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。次の計算式で表される。

$$\text{特化係数}(\text{付加価値額}) = \frac{\text{地域における産業 A の付加価値額比率}}{\text{全国における産業 A の付加価値額比率}} = \frac{15\%}{10\%} = 1.5 \text{（例）}$$

特化係数が 1.0 を超えていれば、その産業は全国に比べて特化しており、他地域より多くの企業が地域内でまとまって生産を行っている産業集積が生じていると評価できる。

修正特化係数とは、特化係数を日本全国の各産業の輸出入の状況で重みづけを施したもの。大まかに言えば、修正特化係数が 1.0 を超える産業が基盤産業である。

特化係数	地域の産業の日本国内における強みを表したもの
修正特化係数	地域の産業の世界における強みを表したもの

図１０は当地域内各産業の修正特化係数である。岡山市の３次産業は、生産額、付加価値額、雇用者所得のいずれにおいても比較優位にあり、地域の稼ぎを支える基盤産業となっている。

[4] 出典：RESAS（地域経済分析システム）．中村良平（2008）「都市・地域における経済集積の測度(上)」岡山大学経済学会雑誌，39(4)，pp.99-121．経済産業省（2015）「地域経済分析の考え方とポイント」，p.9．中村亮平（2017）「地域経済分析の視点」，p.16.をもとに本会作成。

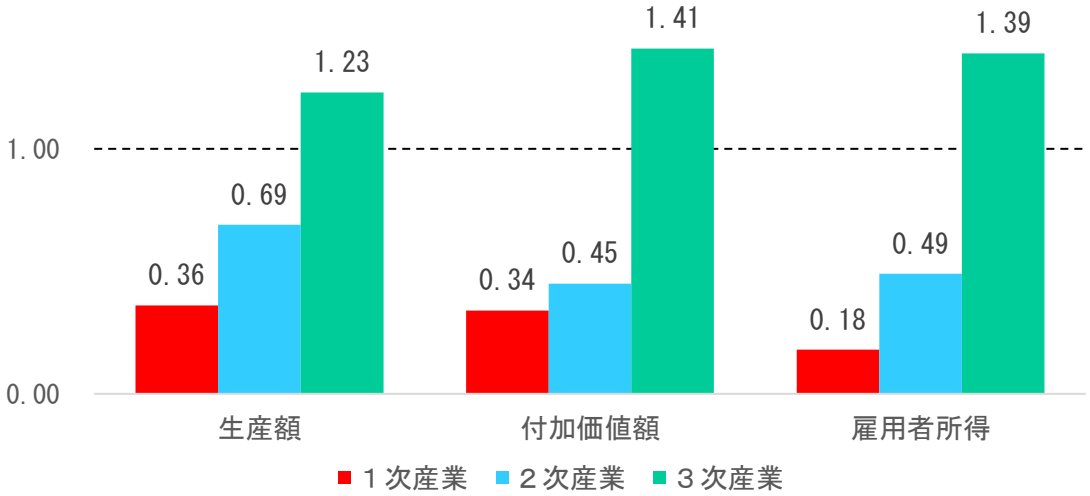

図１０　地域内各産業の修正特化係数（生産額、付加価値額、雇用者所得別）

（２）産業別収支

地域外からの稼ぎと地域外への支出の差である移輸出入収支額を分析し、岡山市外からお金を獲得している産業、岡山市外にお金が流出している産業を特定する。

移輸出	地域内で生産された商品やサービスが地域外で販売されること。 国内への移出と国外への輸出からなる。
移輸入	地域外で生産された商品やサービスを地域内へ購入してくること。 国内からの移入と国外からの輸入からなる。
移輸出入収支額	移輸出による収入額から移輸入による支出額を差し引いたもの。

まず、産業別の移輸出入収支額では、３次産業がプラス、それ以外の産業がマイナスで、全産業では 157 億円を地域外から獲得していることが分かる（図１１）。

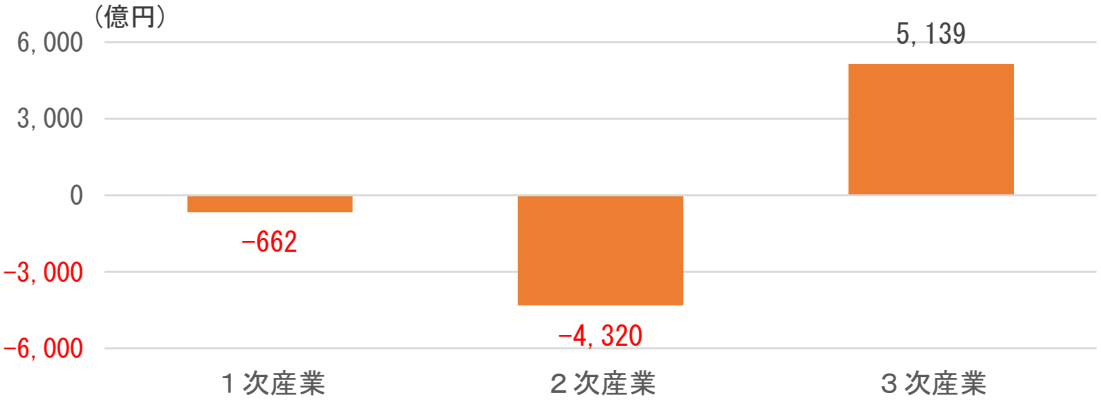

図１１　地域内各産業の移輸出入収支額

次に、各産業の移輸出入収支額について内訳を見ると（図１２）、２次産業では、輸送用機械製造業、建設業、はん用・生産用・業務用機械製造業といった産業が、流出の原因産業となっていることが分かる。設備投資や資材の調達で地域外からの移輸入に依存しやすい産業特性が垣間見える。一方、食料品製造業や印刷業は、地域外に移輸出して稼いでいる産業である。３次産業では、情報通信業、保健衛生・社会事業、教育、専門サービス業等が、地域外の顧客から稼いでいる産業である。

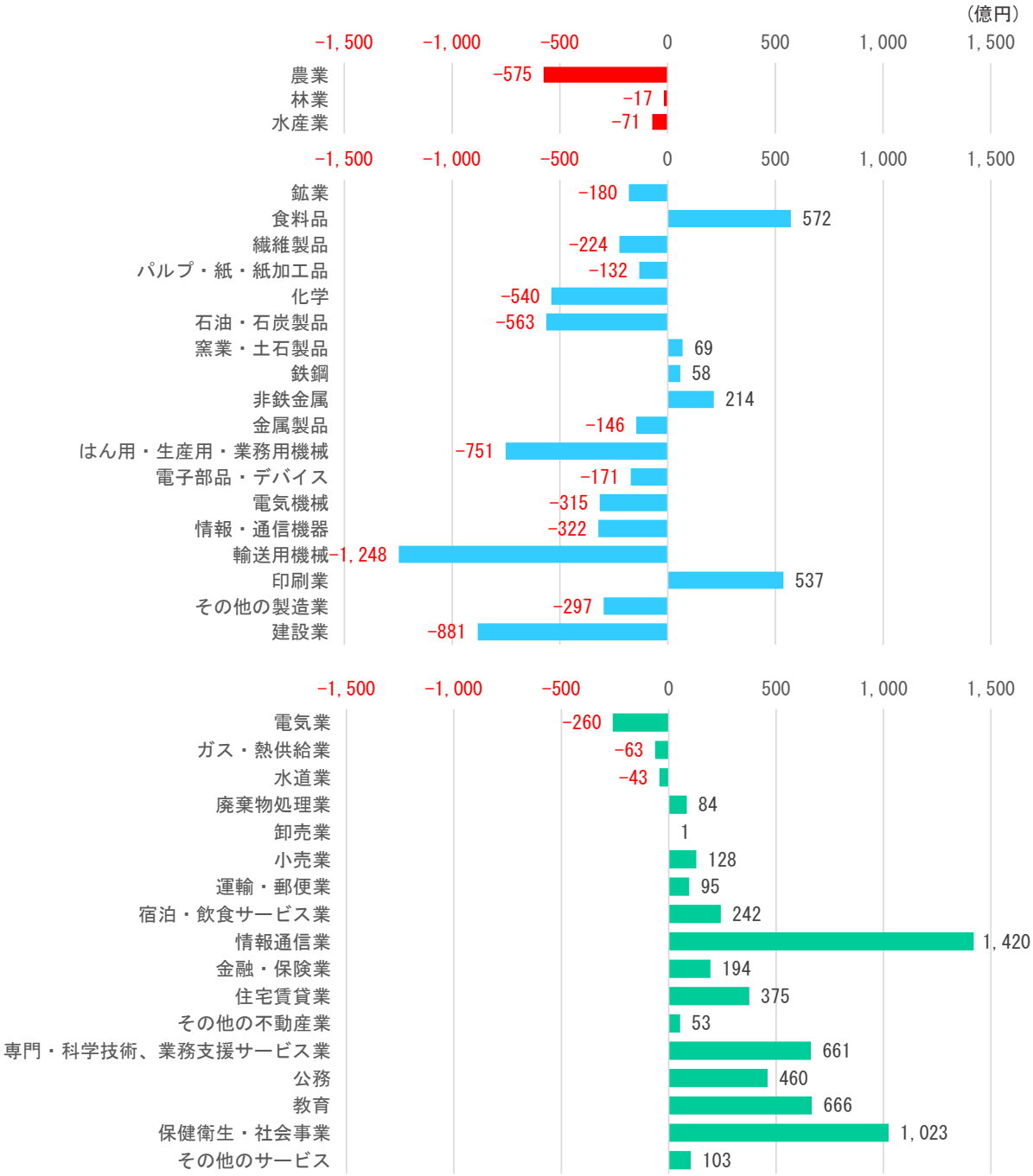

図１２　移輸出入収支額の産業分類別内訳

（３）影響力と感応度から見た地域産業

産業別の影響力係数と感応度係数の指標を用いて、当地域内において他産業への影響力を持っているのはどのような産業か、また反対に他産業から影響を受けやすいのはどのような産業かを把握する。いずれの指標も 1.0 を超えて大きいほど影響の度合いが大きい。

影響力係数	当該産業に対する新たな需要が、全産業（調達先）に与える影響の強さ
感応度係数	全産業に対する新たな需要によって、当該産業が受ける影響の強さ

岡山市の産業では、情報通信や宿泊・飲食サービス、水道等の生産が他産業の生産に影響を与える度合いが比較的強い。また、感応度が低く他産業の生産に左右されにくい産業が割合多いが、専門サービス、卸売、運輸・郵便、情報通信等、大きな影響を受ける産業もある（図１３，表１）。

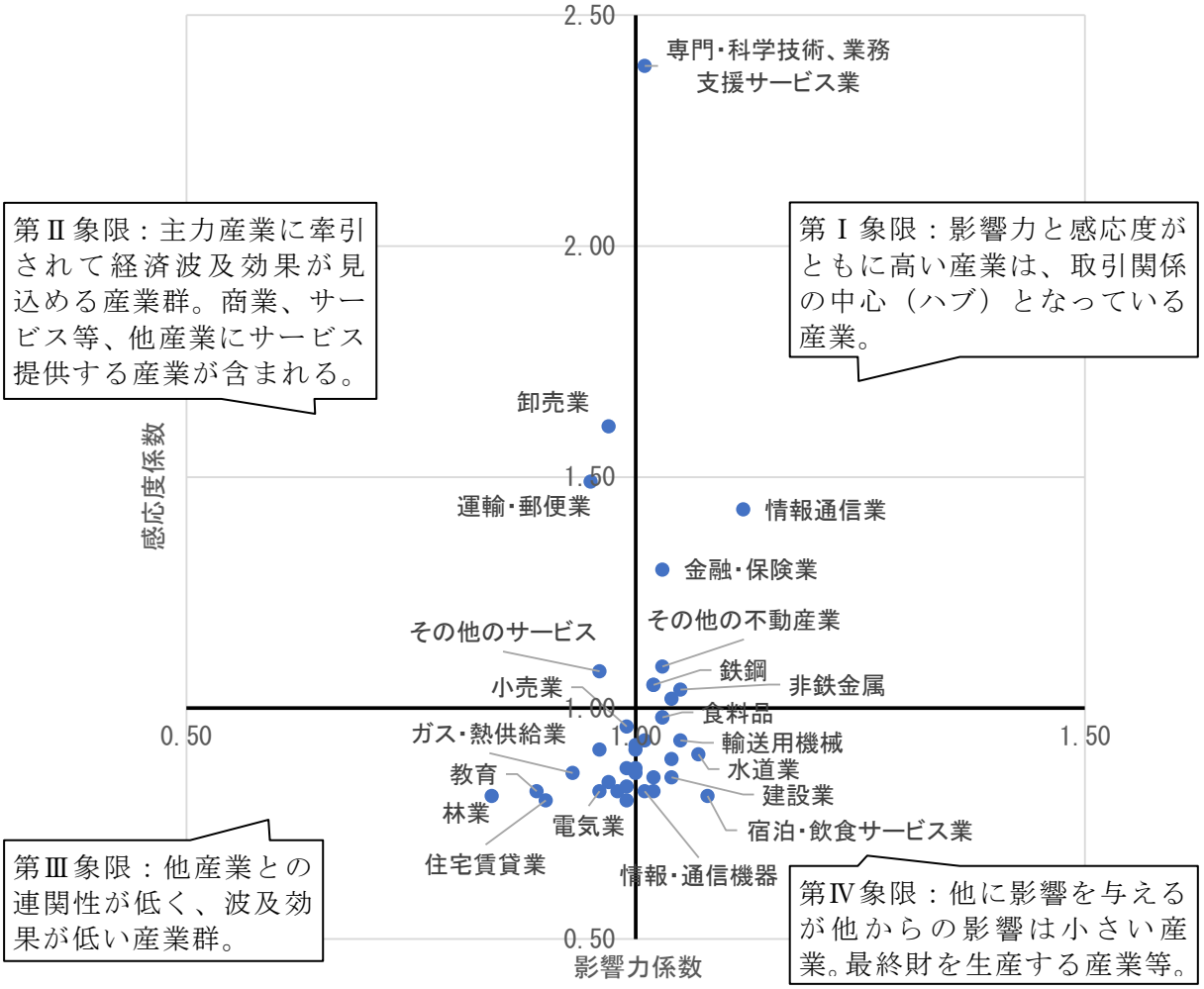

図１３　当地域内産業の影響力と感応度の散布図

表１　産業分類別の影響力係数と感応度係数

	産業分類名	影響力係数	感応度係数
１次	農業	0.97	0.84
	林業	0.84	0.81
	水産業	1.02	0.82
２次産業	鉱業	0.99	0.83
	食料品	1.03	0.98
	繊維製品	1.04	0.89
	パルプ・紙・紙加工品	1.03	0.98
	化学	1.02	1.05
	石油・石炭製品	1.00	0.92
	窯業・土石製品	0.99	0.87
	鉄鋼	1.02	1.05
	非鉄金属	1.05	1.04
	金属製品	1.00	0.91
	はん用・生産用・業務用機械	1.00	0.87
	電子部品・デバイス	1.01	0.93
	電気機械	1.02	0.85
	情報・通信機器	1.01	0.82
	輸送用機械	1.05	0.93
	印刷業	1.00	0.86
	その他の製造業	1.04	1.02
	建設業	1.04	0.85
３次産業	電気業	0.96	0.82
	ガス・熱供給業	0.93	0.86
	水道業	1.07	0.90
	廃棄物処理業	0.96	0.91
	卸売業	0.97	1.61
	小売業	0.99	0.96
	運輸・郵便業	0.95	1.49
	宿泊・飲食サービス業	1.08	0.81
	情報通信業	1.12	1.43
	金融・保険業	1.03	1.30
	住宅賃貸業	0.90	0.80
	その他の不動産業	1.03	1.09
	専門・科学技術、業務支援サービス業	1.01	2.39
	公務	0.99	0.80
	教育	0.89	0.82
	保健衛生・社会事業	0.98	0.82
	その他のサービス	0.96	1.08

（４）地域産業の競争力

岡山市の産業が、①どれだけ稼いでいるか、②どれだけ効率的な生産を行っているか、③どれだけ多くの労働力を確保しているか、特化係数を用いて全国水準と比較することにより、競争力を持った地域の中核産業を特定する。

①どれだけ稼いでいるか（付加価値額）

図１４は、特化係数が 1.0 を超え全国と比べて稼ぐ力が相対的に高い地域内産業。

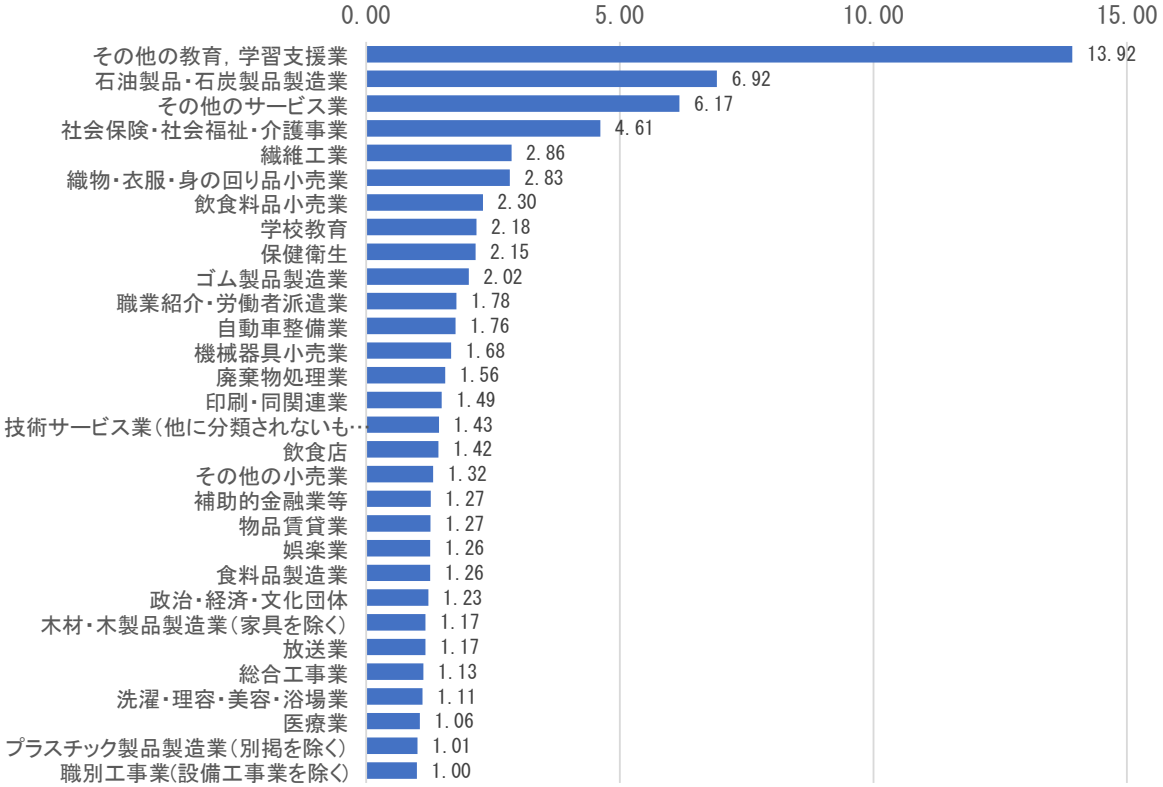

図１４　当地域内産業の特化係数（付加価値額）

②どれだけ効率的な生産を行っているか（労働生産性）

図１５は、全国の同じ産業の労働生産性と比べて相対的に高い地域内産業。

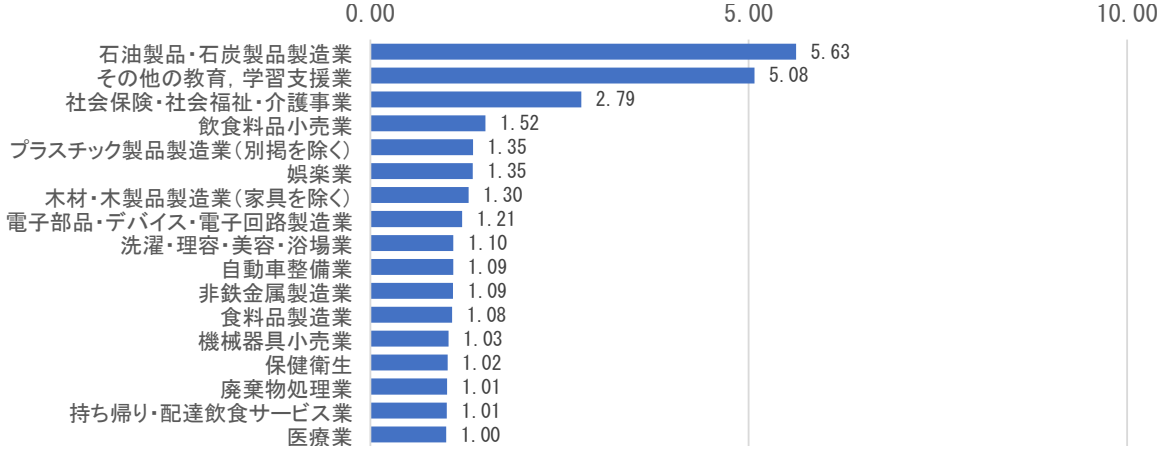

図１５　当地域内産業の特化係数（労働生産性）

③どれだけ多くの労働力を確保しているか（従業員数）

図１６は、全国の同じ産業と比べて従業者がより多く集積している産業。

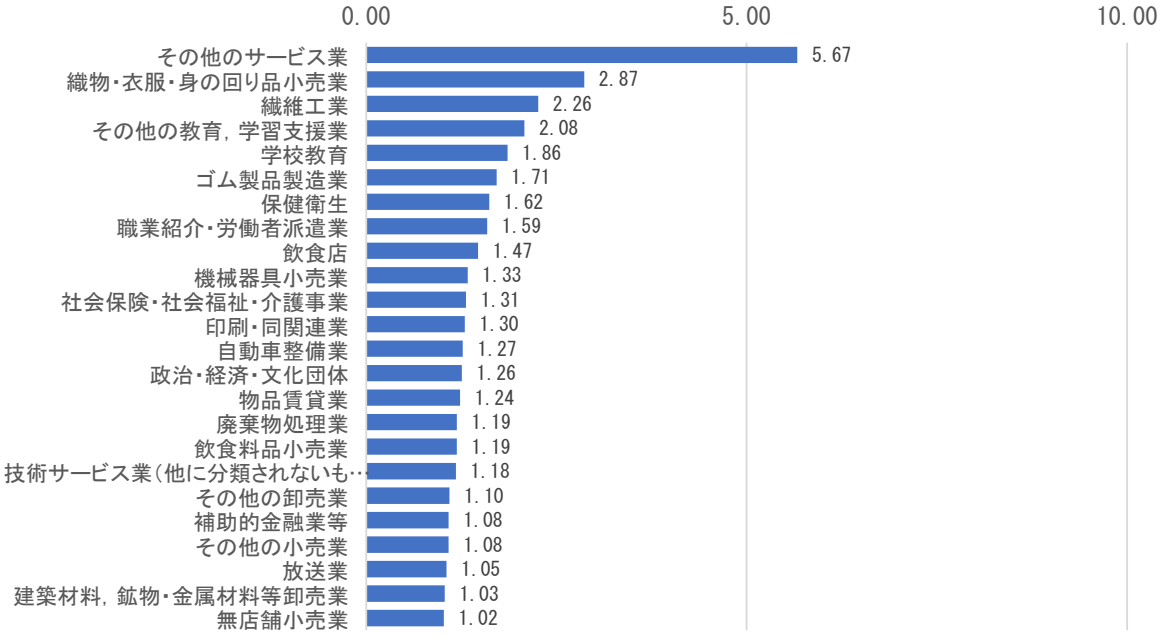

図１６　当地域内産業の特化係数（従業者数）

当地域において、付加価値額、労働生産性、従業者数の特化係数が全て 1.0 を超える産業は、次の７つである（業種中分類コード順）。

飲食料品小売業	機械器具小売業	保健衛生	その他の教育，学習支援業	社会保険・社会福祉・介護事業	廃棄物処理業	自動車整備業

これらの業種は産業集積度が高く、規模の経済、集積の経済の効果からも産業全体で高い生産性を達成していることが推察され、全国的に見て競争力のある、地域の中核産業と位置づけられる。

中核産業候補

生産性や人手不足を改善することで、今後当地域の中核産業に成長する可能性を秘めた業種を分析する。特化係数の分布状況から中核産業候補を見いだす。

図１７は、全国水準以上の稼ぐ力を持ちながら、労働生産性又は労働力確保に課題がある地域内産業の散布図である。これらの産業の課題解決に向けた取組や支援を通じて、散布図右上の第Ⅰ象限に引き上げることで、当該業種は地域経済を牽引する新たな中核産業へと発展することが期待できる。

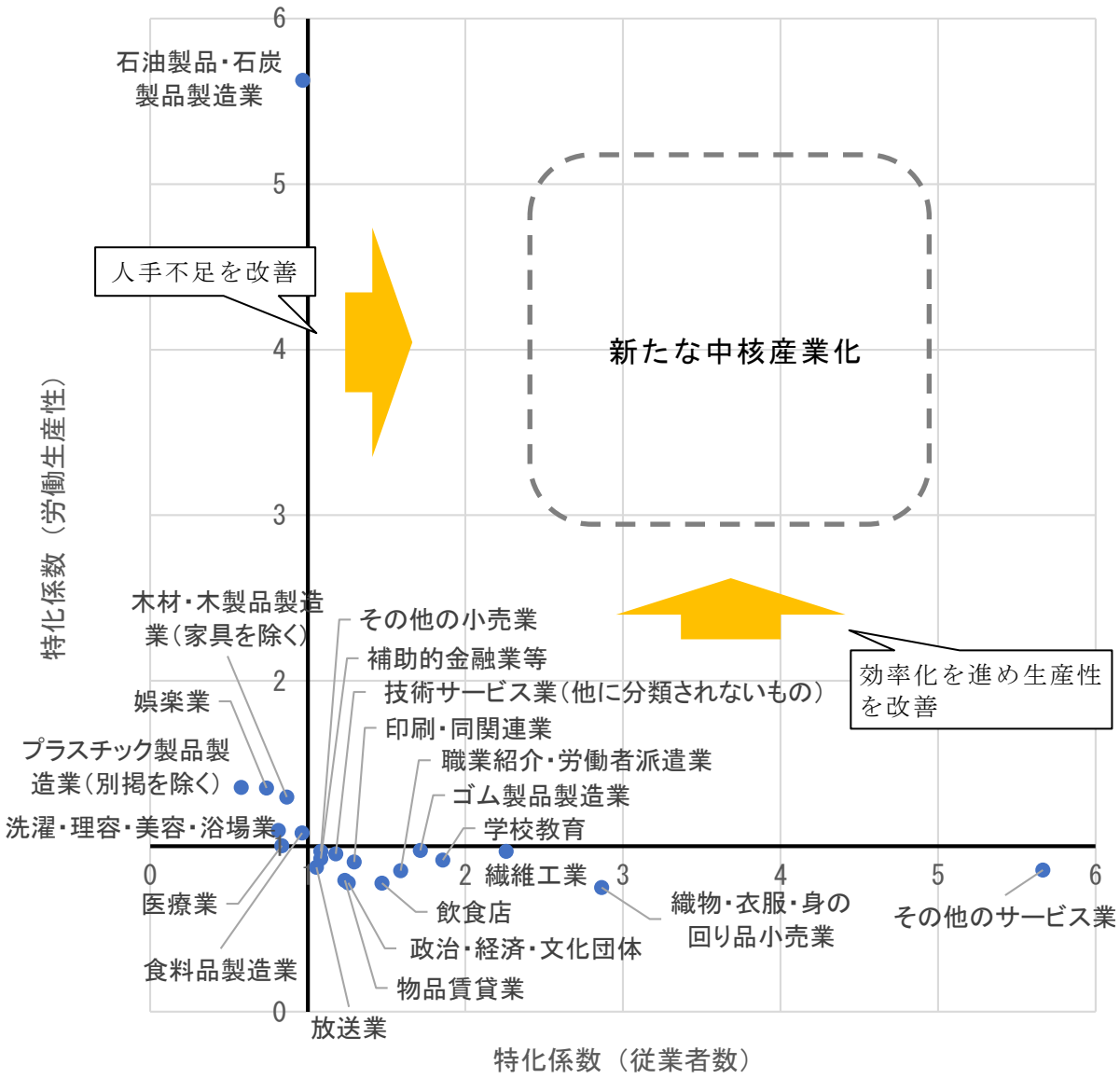

図１７　特化係数（労働生産性と従業者数）の散布図（付加価値額の特化係数＞1）

２　地域に来る人の動向[5]

岡山市北区への人口流入状況について、滞在人口により分析する。滞在人口とは、指定地域の指定時間に滞在していた人数の月間平均値で、携帯電話の運用データを基に推計されている。①平日・休日別／日中・夜間別、②年代別に、どの地域から来る人が多く滞在しているかを把握する。さらに、全国における岡山市北区の集客力を時系列で分析する。

（１）どこから観光に来ているか

岡山県外から岡山市北区へ来る滞在人口を観光客と捉え、どの程度の人口が、どのような都道府県から来て当地域へ滞在しているかを把握する（図１８，図１９，表２）。

①平日・休日（土日祝）別／日中（14 時）・夜間（20 時）別

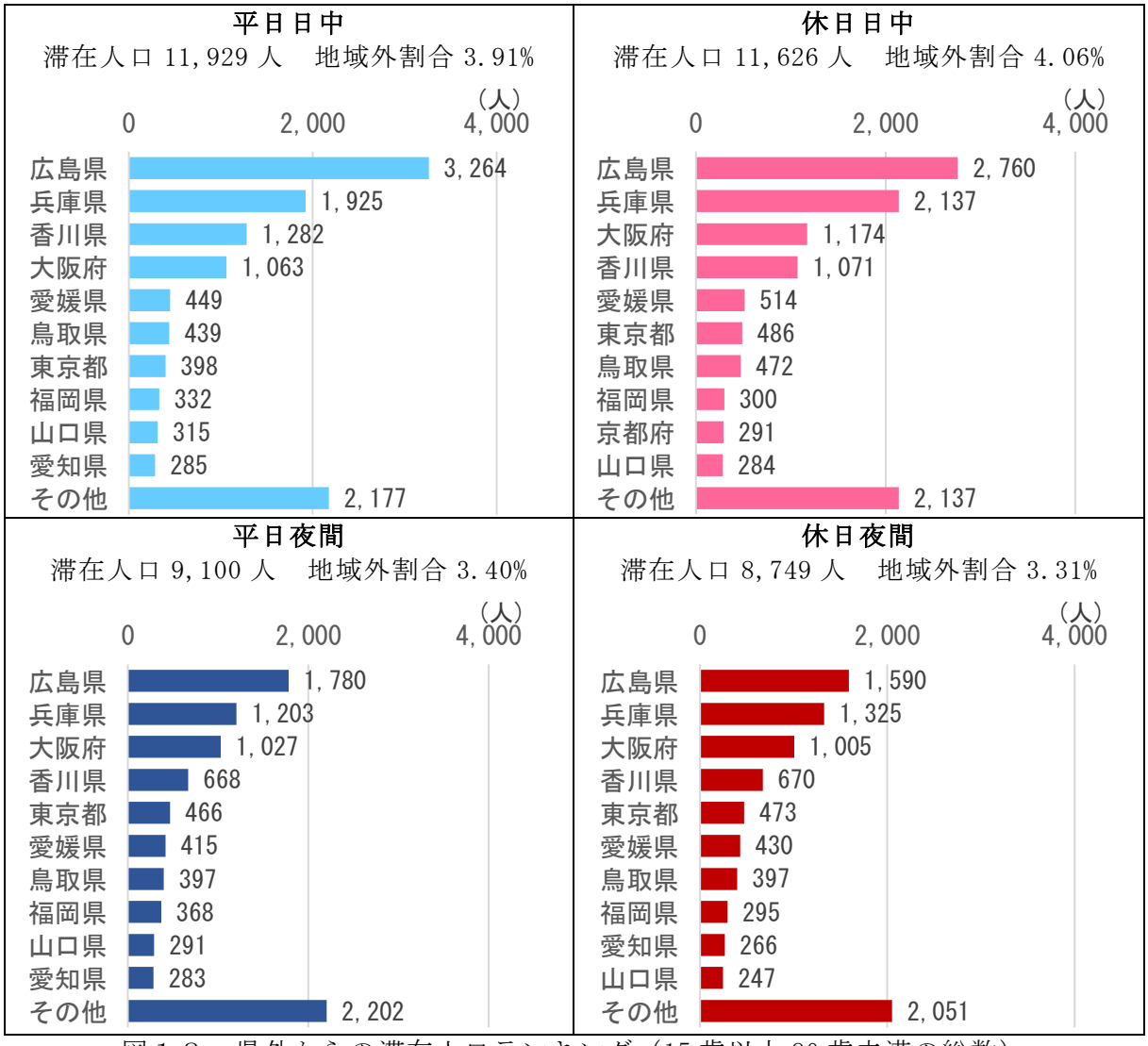

図１８　県外からの滞在人口ランキング（15 歳以上 90 歳未満の総数）

[5] 出典：本項の分析で用いたデータ及び図表は、「RESAS（地域経済分析システム）まちづくりマップ－From-to 分析（滞在人口）（2021 年 6 月），まちづくりマップ－滞在人口率（2014 年-2021 年 6 月）」をもとに本会作成。

岡山市北区にどのような都道府県から観光客が来て滞在しているかについては、平日・休日、日中・夜間で上位の顔ぶれに大差はない。滞在人口については、休日になると広島県からの流入が減り、兵庫県からの流入が増えるという傾向が昼夜を問わず見られる。

②年代別

表２　年代別、地域別、県外滞在人口（平日日中）　（人）

	15 歳以上 20 歳未満	20 歳台	30 歳台	40 歳台	50 歳台	60 歳台	70 歳台	80 歳台
広島県	426	485	446	802	669	305	100	31
兵庫県	131	276	252	478	438	238	87	25
香川県	136	206	158	315	264	123	66	14
大阪府	26	155	169	278	276	107	52	0
愛媛県	50	82	40	106	89	46	25	11
東京都	－	59	62	99	90	51	27	10
福岡県	21	45	55	82	86	32	－	0
山口県	35	45	－	70	81	－	25	0
鳥取県	31	43	43	86	88	48	46	54
高知県	29	34	－	－	－	－	－	0
愛知県	－	－	39	76	－	33	25	0
京都府	－	－	33	－	61	33	－	24
島根県	32	－	－	－	－	－	22	0
その他	41	327	260	575	553	265	70	0
合計	958	1,757	1,557	2,967	2,695	1,281	545	169

※数値の無い都道府県はその他に含まれる。

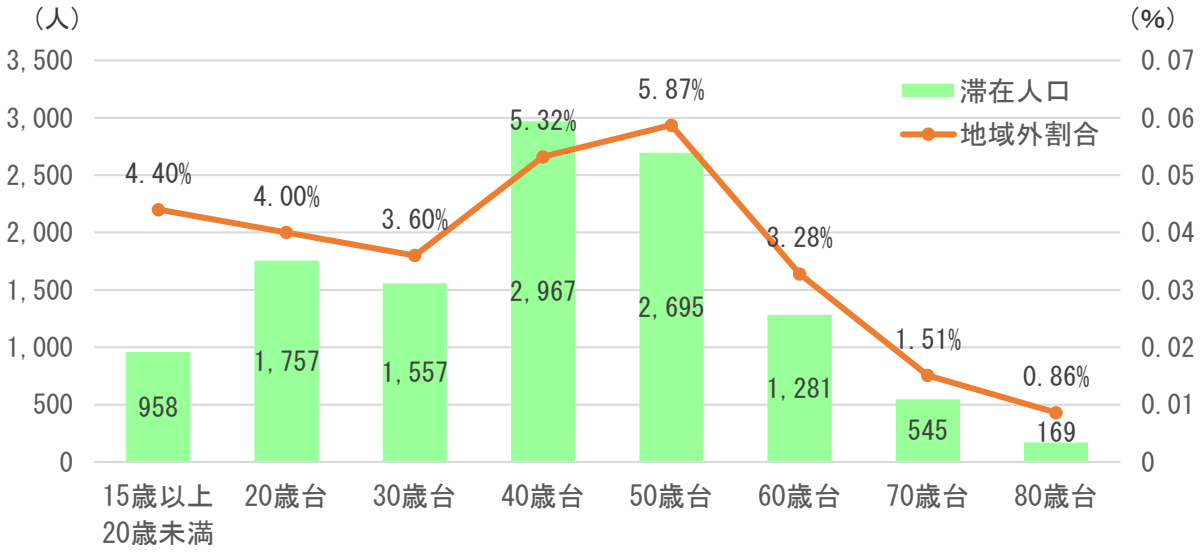

図１９　年代別県外滞在人口及び地域外割合（平日日中）

岡山市北区に県外から来る観光客は、40 歳台と 50 歳台が中心。各年代の滞在人口合計に占める県外からの滞在人口の割合（地域外割合）についても、40 歳台と 50 歳台が比較的高い。

（２）どこから買い物に来ているか

岡山県内からの滞在人口を生活圏内の買い物客や通勤者・通学者と捉え、どの程度の人口が、どのような市区町村から来て滞在しているかを把握する（図２０，図２１，表３）。

①平日・休日（土日祝）別／日中（14 時）・夜間（20 時）別

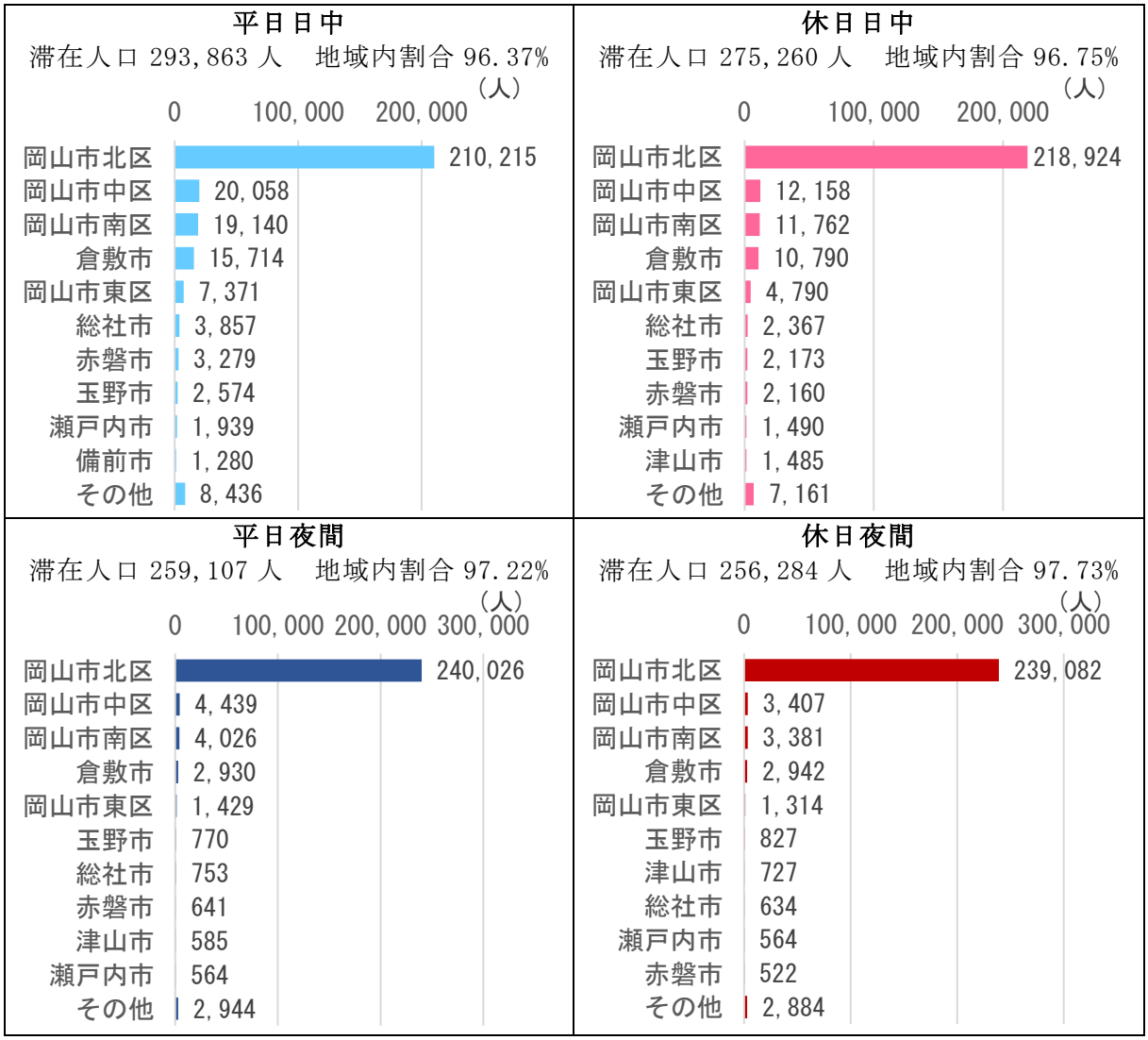

図２０　県内の滞在人口ランキング（15 歳以上 90 歳未満の総数）

県内からの買い物客や通勤者・通学者は、岡山市北区からの、すなわち自地域内から来る人が大半である。とはいえ日中では、買い物客、通勤・通学者の約２割から３割は他地域から流入しており、北区を生活圏内とする人が周辺地域に広く存在している。当地域の事業者はこうした市区町村も商圏と捉えることができる。

②年代別

表３　年代別、地域別、県内滞在人口（平日日中）　（人）

	15 歳以上 20 歳未満	20 歳台	30 歳台	40 歳台	50 歳台	60 歳台	70 歳台	80 歳台
北区	12,033	28,248	28,645	35,251	28,898	28,089	30,908	18,143
中区	1,566	3,108	3,557	4,271	3,529	2,429	1,261	337
東区	881	1,290	1,097	1,446	1,235	922	394	106
南区	2,098	3,134	3,102	4,115	3,293	2,137	1,014	247
倉敷市	1,956	2,957	2,401	3,452	2,797	1,498	552	101
総社市	510	633	611	839	630	440	147	47
赤磐市	432	444	484	706	542	400	211	60
玉野市	246	490	318	505	439	361	164	51
瀬戸内市	238	350	269	406	305	229	96	46
津山市	－	－	170	246	205	154	84	－
備前市	217	231	－	－	－	－	－	42
その他	760	1,346	1,086	1,589	1,373	1,094	716	403
合計	20,937	42,231	41,740	52,826	43,246	37,753	35,547	19,583

※数値の無い市区町村はその他に含まれる。

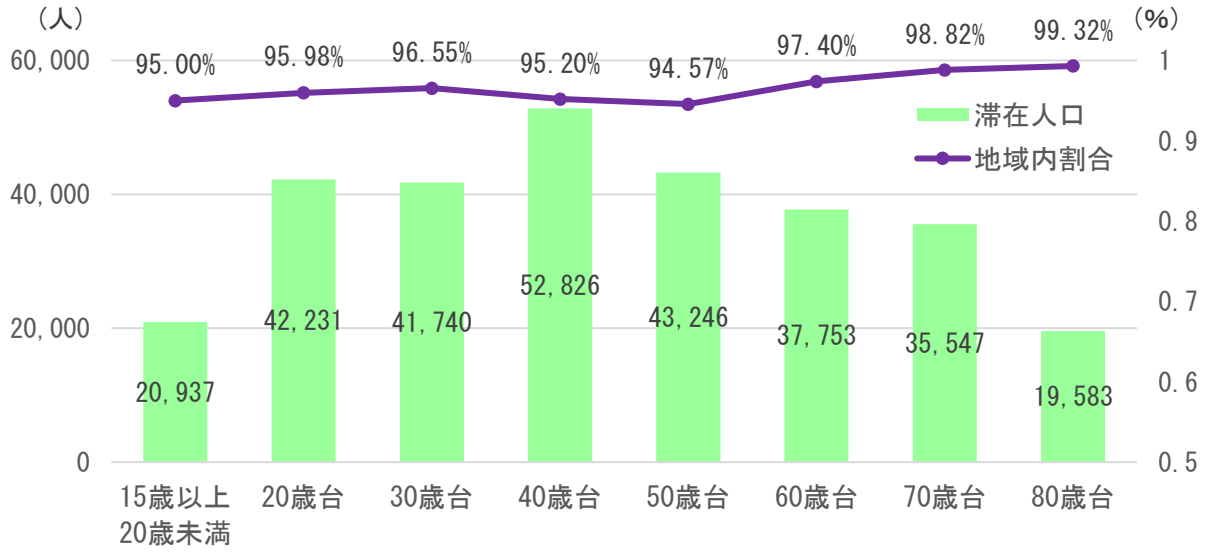

図２１　年代別県内滞在人口及び地域外割合（平日日中）

年代別の滞在人口構成は、岡山県の人口構成（人口ピラミッド）とほぼ同様の分布。30 歳台から 70 歳台のミドル、シニア層では、若年層と比べて津山市からの人口流入がやや多く、若年層では備前市からの人口流入がやや多くなる傾向がある。

（３）集客力の現状

滞在人口率とその全国ランキングデータを用いて、買い物客や通勤者・通学者、観光客をどれだけ地域外から集められているか、岡山市北区の集客力を時系列で分析する。

滞在人口率とは、当該地域の実際の人口に対して、月間平均で何倍の滞在人口が来ているかを表す指標。滞在人口÷国勢調査人口で表される。

滞在人口率を平日のみの月間平均で見れば、おおむね、買い物客や通勤者・通学者等をどれだけ地域外から集められているかを把握できる。休日のみの月間平均で見れば、おおむね、観光客をどれだけ地域外から集められているかを把握できる。

岡山市北区の滞在人口と滞在人口率は、いずれもやや減少傾向で推移している（図２２）。直近２年は新型コロナウイルス感染症の影響による集客力の低下が考えられるが、一方で滞在人口率の全国ランキングはやや上昇している（図２３）。全国の都市がコロナ禍の影響を大きく受けるなかでも、当地域は滞在人口の低下が小幅で踏みとどまっており、相対的に集客力を維持している状況と解釈することができる。

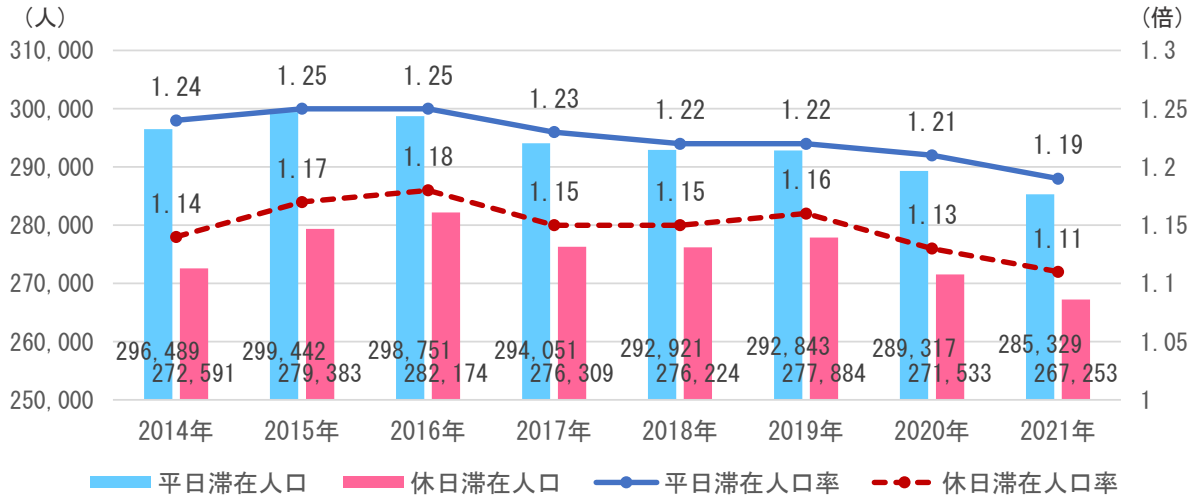

図２２　岡山市北区の滞在人口及び滞在人口率

図２３　岡山市北区の滞在人口率全国ランキングの推移[6]

6 直近のランキングは全 1891 位中の 130 位、上位 7%以内。期間中の市区町村数は 1884 から 1891 に変化。

新型コロナウイルス感染症による人流への影響について、岡山市中心部の最新動向を確認する（図２４）[7]。滞在人口の推定居住地を、①岡山市内、②岡山県内の他の市区町村、③他の都道府県に分けて地域集客力の推移を把握する。

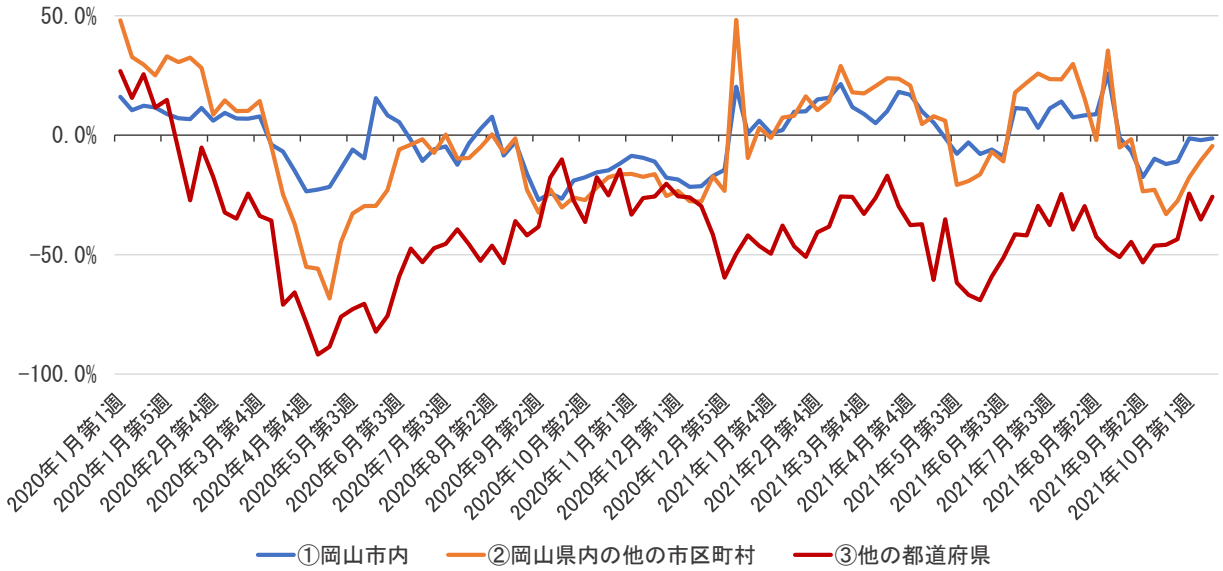

図２４　岡山市中心部の滞在人口　推定居住地ごとの 2019 年同週比の推移[8]

①岡山市内（地元の人）

岡山市内から来る滞在人口は、緊急事態宣言が全国に拡大した 2020 年 4 月、感染の第２波が猛威を振るった 2020 年８月以降に、コロナ以前と比べて 20%程度減少したものの、人流への影響は比較的小幅で推移している。

②岡山県内の他の市区町村（生活圏内の人）

岡山県内の他地域から来る滞在人口は、感染拡大状況と緊急事態宣言等の発出時期に呼応して、大きく影響を受けてきた。2020 年 5 月の滞在人口はコロナ以前と比べて 68%減少した。2021 年に入ってからは、滞在人口は以前より増加基調で推移していたが、感染第５波で足元では再び減少している。まだ安定的な集客力を取り戻せてはいないものの、緩やかに回復しつつある状況と見られる。

③他の都道府県（観光客）

岡山県外から来る滞在人口は、2020 年 2 月以降、2019 年同週比マイナスで推移しており、コロナ以前の水準に回復できていない。集客力の持ち直しが観光や旅行者にまで拡大したと判断するためには、コロナ禍の影響を引き続き注視する必要がある。

---

7 出典：本項の分析で用いたデータ及び図表は、「V-RESAS 及び株式会社 Agoop『流動人口データ』（GPS データを元に換算処理を施した人口換算値）（2021 年 11 月 2 日に利用）」をもとに本会作成。

8 2019 年 12 月 30 日～2021 年 10 月 24 日、すべての時間帯、代表観測地点は岡山駅を指定。

第２部　岡山西商工会エリアの経済動向、特徴とビジネス機会

第２部では、岡山西商工会管内の経済動向について、吉備、高松、足守の３地区ごとに、現状を把握、各地区の特徴を整理し、今後のビジネス機会を検討する。

１　商工会エリアの経済動向

（１）地区別人口・世帯数[9]

過去１０年間の推移（表４）では、吉備地区は人口、世帯数ともに増加し、北区の増加率と比較しても高い水準で推移している地区である。高松地区は、人口微減で世帯数は増加。足守地区は、人口減少で世帯数はほぼ横ばいである。

表４　地区別人口・世帯数の推移　（人）

		2011年 (平成23年)	2014年 (平成26年)	2019年 (平成31年)	2021年 (令和3年)	増加数	増加率
人口	吉備地区	24,392	25,556	26,937	27,256	2,864	11.7%
	高松地区	17,822	17,768	17,449	17,445	-377	-2.1%
	足守地区	7,165	6,821	6,277	6,103	-1,062	-14.8%
	管内全体	49,379	50,145	50,663	50,804	1,425	2.9%
	岡山市北区	288,615	291,911	295,990	295,776	7,161	2.5%
世帯数	吉備地区	9,547	10,322	11,284	11,678	2,131	22.3%
	高松地区	6,578	6,764	7,062	7,251	673	10.2%
	足守地区	2,863	2,876	2,849	2,829	-34	-1.2%
	管内全体	18,988	19,962	21,195	21,758	2,770	14.6%
	岡山市北区	128,995	137,417	145,297	147,655	18,660	14.5%

※増加数と増加率はいずれも2011年比。

9 出典：岡山市行政区別住民基本台帳人口をもとに本会作成。データは各年4月末時点。

（２）人口予測と市場動向[10]

将来人口の推計データを用いて、各地区の長期的な人口構造変化、市場動向を予測する。年齢階級は、年少人口（0～14 歳）、生産年齢人口（15～64 歳）、高齢者人口（65 歳以上）の３階級とした。

①吉備地区

岡山市の人口が減少期に入る 2020 年以降も、吉備地区は人口が増加する見通し（表５，図２５）。地区全体では年率平均 1%増に対し高齢者人口は 2.5%で増えることから、徐々にシルバーマーケットの厚みが増してくることが予想される。年少人口及び生産年齢人口においても、増加率はプラスで推移するものと見られ、引き続き幅広い世代で堅調な消費が期待できる地区である。

表５　年齢階級別人口予測・増加率・高齢化率　吉備地区　（人）

	2021 年（令和 3 年）実績	2025 年（令和 7 年）	2030 年（令和 12 年）	2035 年（令和 17 年）	2040 年（令和 22 年）	2045 年（令和 27 年）	増加率の年率平均
管内全体	27, 256	28, 599	30, 203	31, 715	33, 147	34, 517	1. 1%
年少人口	4, 364	4, 413	4, 572	4, 734	4, 947	5, 131	0. 7%
生産年齢人口	16, 770	17, 645	18, 489	19, 127	19, 194	19, 537	0. 7%
高齢者人口	6, 122	6, 541	7, 142	7, 854	9, 005	9, 849	2. 5%
高齢化率	22. 5%	22. 9%	23. 6%	24. 8%	27. 2%	28. 5%	

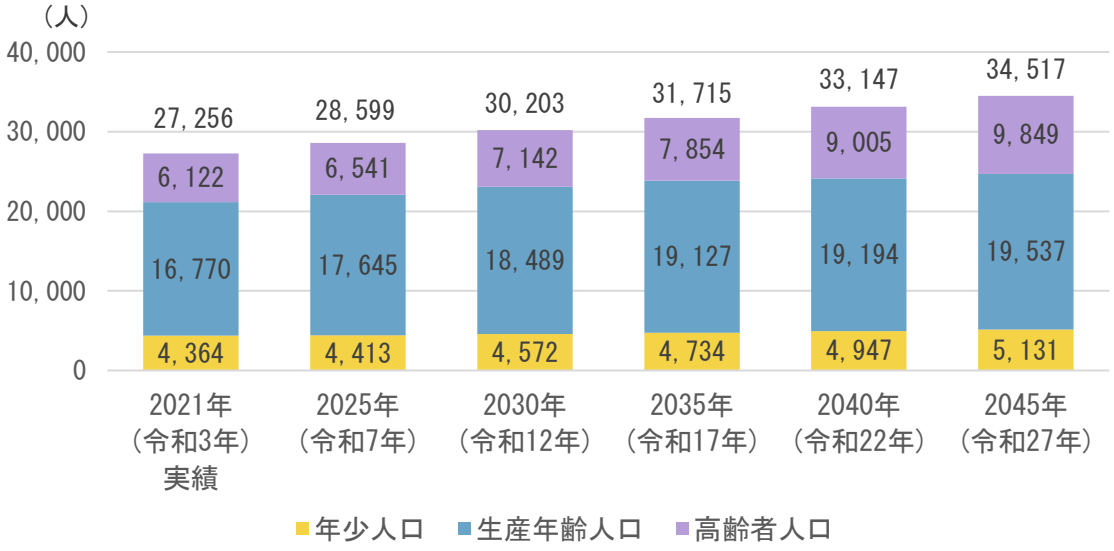

図２５　年齢階級別人口予測　吉備地区

[10] 出典：岡山市行政区別住民基本台帳人口（令和 3 年 9 月末）、岡山市統計月報令和 3 年 10 月号，国立社会保障・人口問題研究所（2018「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」をもとに本会推計。

②高松地区

高松地区は、年少人口と生産年齢人口が微減の一方、高齢者人口は微増で推移する見通し（表６，図２６）。おおむね、岡山市全体の人口動態[11]と同じであるが、年少人口の減少率は岡山市の水準よりも若干緩やかで、高齢化率（高齢者人口比率）は岡山市の水準よりもやや高い。シルバー関連の底堅い需要が見込まれる地区である。

表６　年齢階級別人口予測・増加率・高齢化率　高松地区　（人）

	2021 年（令和 3 年）実績	2025 年（令和 7 年）	2030 年（令和 12 年）	2035 年（令和 17 年）	2040 年（令和 22 年）	2045 年（令和 27 年）	増加率の年率平均
管内全体	17, 445	17, 284	16, 989	16, 603	16, 148	15, 648	−0. 4%
年少人口	2, 254	2, 133	2, 047	1, 965	1, 911	1, 843	−0. 8%
生産年齢人口	9, 771	9, 710	9, 463	9, 097	8, 460	7, 993	−0. 8%
高齢者人口	5, 420	5, 441	5, 480	5, 541	5, 777	5, 812	0. 3%
高齢化率	31. 1%	31. 5%	32. 3%	33. 4%	35. 8%	37. 1%	

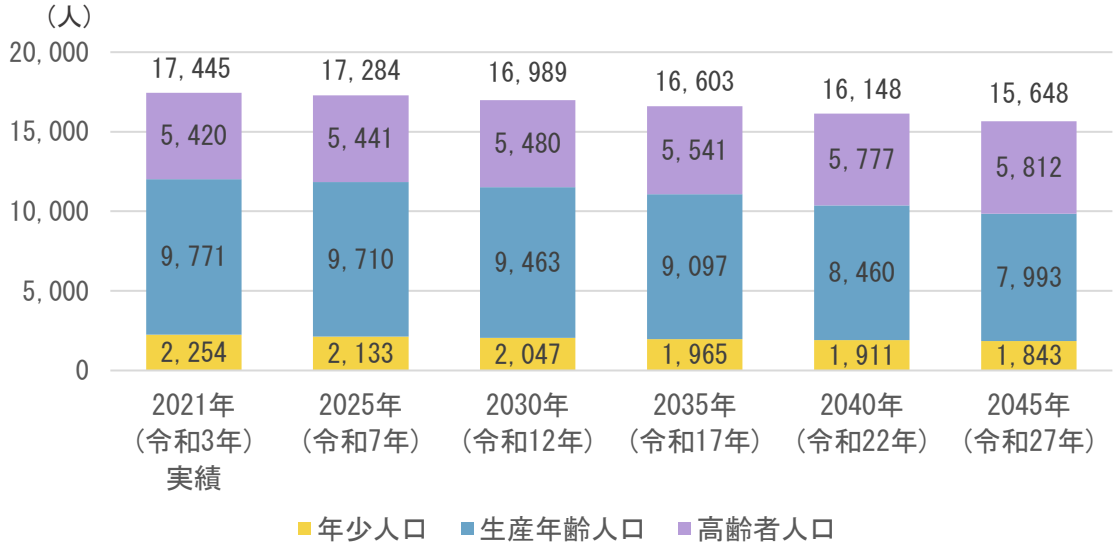

図２６　年齢階級別人口予測　高松地区

11 岡山市推計の年少人口比率及び高齢者人口比率は 2045 年でそれぞれ、11.1%、33.6%。出典：岡山市（2014）「岡山市の人口動態と将来推計人口について」，p. 3

③足守地区

全ての年齢階級で人口が減少する見通し（表７，図２７）。足守地区では、今後シルバーマーケットも縮小に転じるが、高齢者人口の割合は４割から５割弱へと拡大し、管内の消費における高齢者需要の位置づけは一段と大きくなる。

表７　年齢階級別人口予測・増加率・高齢化率　足守地区　（人）

	2021 年（令和 3 年）実績	2025 年（令和 7 年）	2030 年（令和 12 年）	2035 年（令和 17 年）	2040 年（令和 22 年）	2045 年（令和 27 年）	増加率の年率平均
管内全体	6,103	5,744	5,294	4,850	4,423	4,018	-1.42%
年少人口	576	509	453	405	369	333	-1.76%
生産年齢人口	2,979	2,813	2,567	2,308	1,999	1,763	-1.70%
高齢者人口	2,548	2,422	2,273	2,137	2,055	1,921	-1.02%
高齢化率	41.7%	42.2%	42.9%	44.1%	46.5%	47.8%	

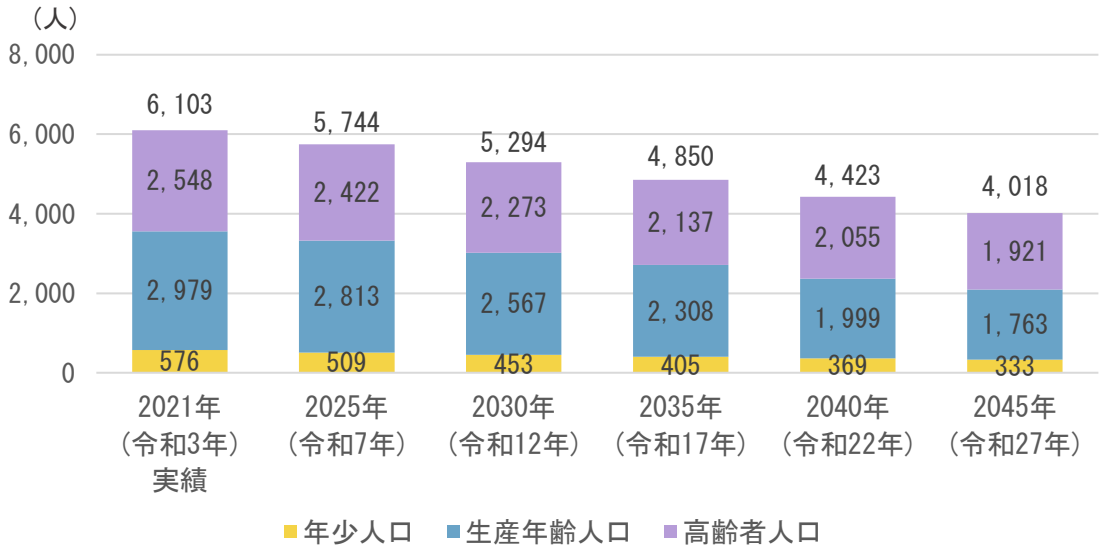

図２７　年齢階級別人口予測　足守地区

２　商工会エリアの特徴とビジネス機会

（１）事業者数・従業者数[12]

管内の事業者数は、全体としてはサービス業が最多で約４割を占め、岡山市及び北区と比べて建設業比率が高い傾向がある。各地区、各業種で減少基調の中、高松地区は、製造業、サービス業、その他（運輸、不動産、医療・福祉等）で事業者が増加（表８，図２８）。

表８　産業（中分類）別事業者数

	D 建設業	E 製造業	I 卸売業，小売業	L，M，N，O，P，Q，R サービス業	その他	合計
吉備地区	100	62	252	296	160	871
増加数	-14	-14	-20	-2	-37	-87
増加率	-12.3%	-18.4%	-7.2%	-0.7%	-18.9%	-9.1%
高松地区	58	38	126	202	43	467
増加数	-10	4	-20	21	7	2
増加率	-14.7%	11.8%	-13.7%	11.6%	19.4%	0.4%
足守地区	43	16	51	138	16	264
増加数	-8	-12	-15	-20	-7	-62
増加率	-15.7%	-42.9%	-22.7%	-12.7%	-30.4%	-19.0%
管内全体	176	106	389	656	189	1,516
増加数	-32	-22	-55	-1	-37	-147
増加率	-15.4%	-17.2%	-12.3%	-0.2%	-16.5%	-8.8%
岡山市北区	1,154	681	4,950	8,556	2,737	18,078
岡山市	2,794	1,822	8,695	14,049	4,438	31,798

※増加数と増加率はいずれも 2009 年に対する 2016 年の値。

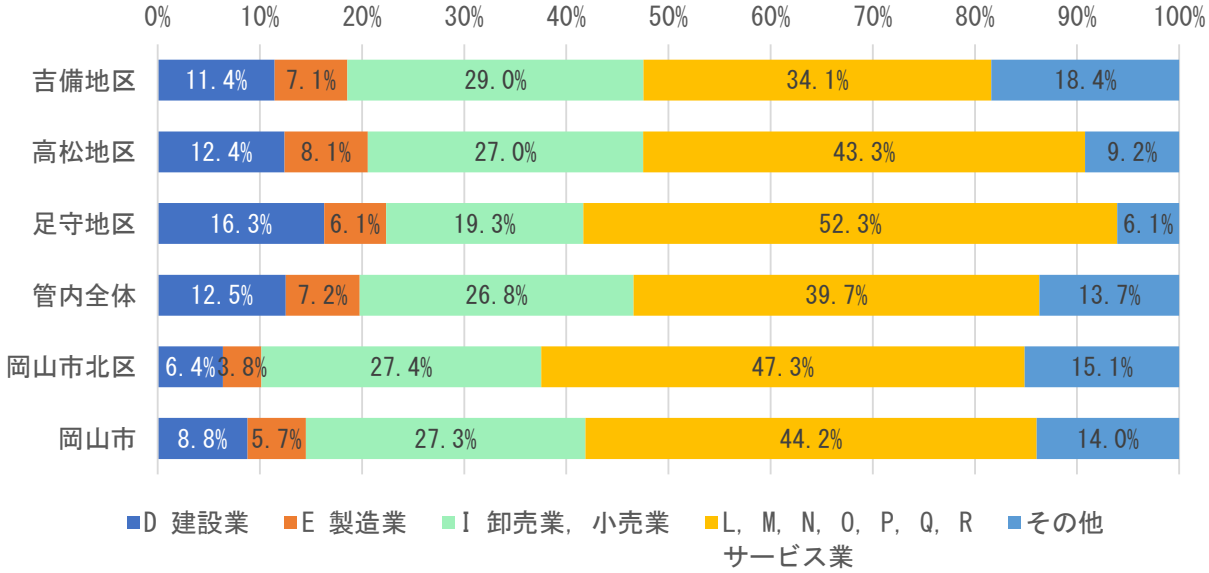

図２８　産業（中分類）別事業者比率

[12] 出典：経済センサス－活動調査（平成 21 年、平成 28 年）をもとに本会作成。

管内の従業員数は、地区ごとに傾向が大きく異なっている（表８，図２８）。吉備地区は、サービス業よりも卸売，小売の従業者が多いのが特徴、建設の従業者は増加傾向。高松地区は、サービス業の従業者が最多で増加傾向。建設以外で従業員数が拡大している。足守地区は、サービス業の中でも医療，福祉の従業者が多い。

表９　産業（中分類）別従業者数　（人）

	D 建設業	E 製造業	I 卸売業，小売業	L，M，N，O，P，Q，R サービス業	その他	合計
吉備地区	728	1,026	2,870	2,099	2,281	9,004
増加数	117	-626	-513	-215	-257	-1,494
増加率	19.1%	-37.9%	-15.2%	-9.3%	-10.1%	-14.2%
高松地区	302	475	828	1,685	303	3,593
増加数	-34	29	93	219	57	364
増加率	-10.1%	6.5%	12.7%	14.9%	23.2%	11.3%
足守地区	245	102	264	1,223	198	2,032
増加数	-34	-60	-99	-37	37	-193
増加率	-12.2%	-37.0%	-27.3%	-2.9%	23.0%	-8.7%
管内全体	1,357	1,007	3,543	5,010	2,582	13,499
増加数	49	-657	-519	-33	-163	-1,323
増加率	3.7%	-39.5%	-12.8%	-0.7%	-5.9%	-8.9%
岡山市北区	1,154	681	4,950	8,556	2,737	18,078
岡山市	2,794	1,822	8,695	14,049	4,438	31,798

※増加数と増加率はいずれも 2009 年に対する 2016 年の値。

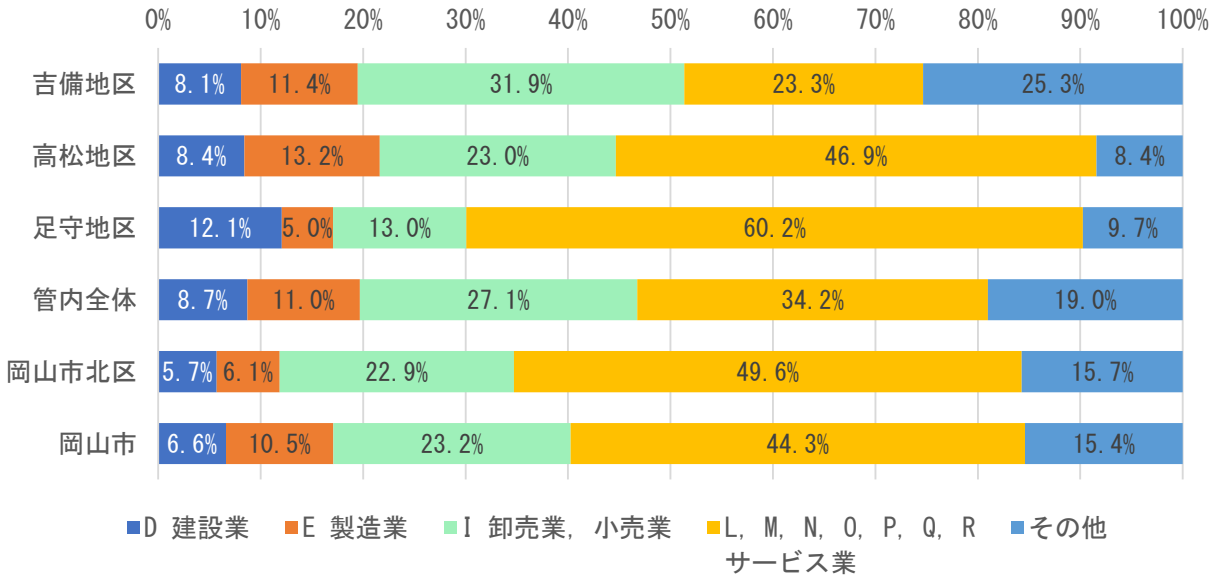

図２９　産業（中分類）別従業者比率

（２）推定市場規模[13]

岡山西商工会管内の基礎的消費支出[14]は、約 680 億円。吉備地区が最も大きい市場を持ち、約 370 億円と推計された。

表１０　基礎的消費支出の推定市場規模　　（百万円）

	世帯数	高齢者人口	年間消費額（世帯ベース）	高齢者の年間消費額	年間商品販売額	地域内消費率
吉備地区	11,678	6,122	36,935	5,849	164,861	446%
高松地区	7,251	5,420	22,933	5,179	14,591	64%
足守地区	2,829	2,548	8,947	2,435	3,582	40%
管内全体	21,758	14,090	68,815	13,463	183,033	266%
岡山市北区	147,655	74,842	466,995	71,512	2,030,924	435%
岡山市	335,554	187,260	1,061,271	178,929	3,194,080	301%

管内のシルバーマーケットは、約 130 億円と推計された（図３０）。足守地区では今後市場縮小が予想されるものの、管内全体としては安定的に拡大を続ける市場となる。医療，介護のサービス分野をはじめ、宅配、送迎、リフォームやバリアフリー工事等、高齢者向けの商品・サービスへの需要増加が期待できる。

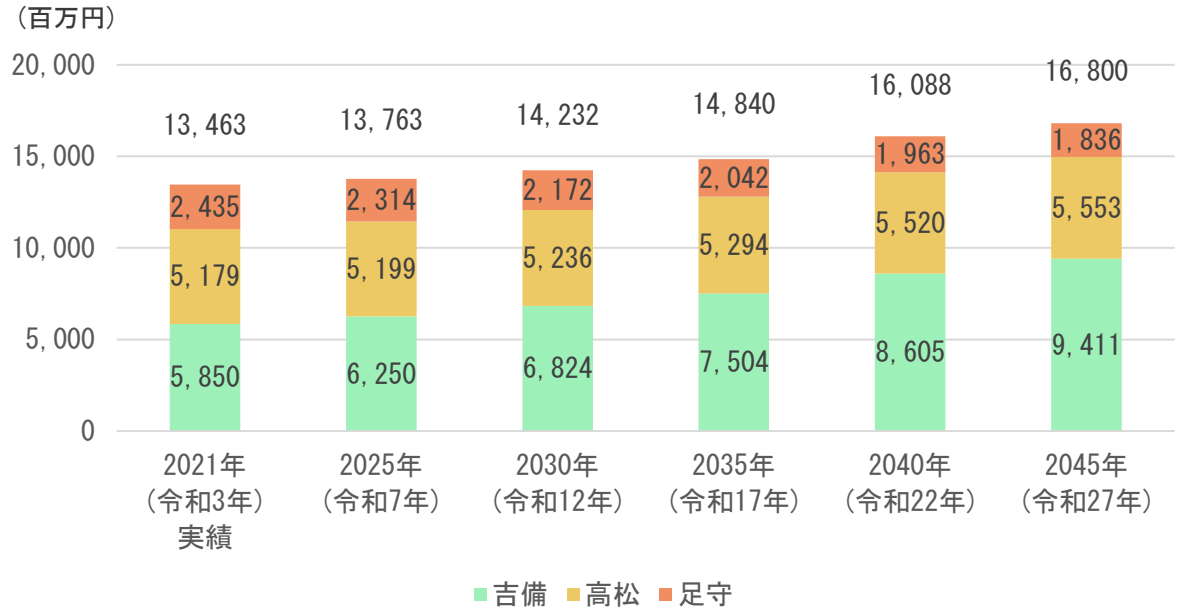

図３０　高齢者人口の推定市場規模

[13] 出典：岡山県家計調査（令和 3 年 4 月分）、岡山市行政区別住民基本台帳人口（令和 3 年 4 月末）、岡山県（2018）「平成 28 年経済センサス-活動調査(卸売業・小売業)」をもとに本会推計。

[14] 日常的な支出で生活の基盤となる消費支出を指す。支出項目は、「内閣府　平成 22 年度年次経済財政報告」を参考に、外食、教養娯楽、仕送り金の項目を除外して算出した。

（３）小売吸引度指数[15]

小売吸引度指数[16]とは、ある都市の小売業の集積が、どの程度地域外から購買力や顧客を引っ張ってきているかを表す指標である。吸引度指数が１を超えている場合はその都市は地域外から購買力や顧客を吸引している吸引都市である。吸引度指数が１を下回る場合は地域外へ購買力や顧客を流出させている流出都市と判別できる。

岡山県内の都市Ａの吸引度指数は、次の計算式で表される。

$$\text{都市 A の吸引度指数} = \frac{\text{都市Ａの人口１人当たりの年間商品販売額}}{\text{岡山県人口１人当たり年間商品販売額}}$$

表１１は、岡山西商工会管内各地区の小売吸引度指数である。吉備地区は消費購買力人口を地区外から吸引している吸引都市、他２地区が流出都市となる。岡山市北区は県内で最も小売吸引度の高い地域であるが、吉備地区はそれに匹敵する集客力を有している。

表１１　管内各地区の小売吸引度指数

	人口（人）	年間商品販売額（万円）	一人当たり年間商品販売額（万円）	小売吸引力指数
吉備地区	26,080	16,486,070	632.13	2.28
高松地区	17,659	1,459,089	82.63	0.30
足守地区	6,628	358,151	54.04	0.20
管内全体	50,367	18,303,310	768.80	2.78
岡山市北区	295,028	203,092,394	688.38	2.48
岡山市中区	146,058	30,776,800	210.72	0.76
岡山市東区	96,491	11,205,200	116.13	0.42
岡山市南区	170,621	74,333,600	435.67	1.57
岡山市	708,198	319,408,032	451.02	1.63
岡山県	1,933,781	535,704,083	277.02	

15 岡山市行政区別住民基本台帳人口（平成 28 年 5 月末）、岡山県（2018）「平成 28 年経済センサス-活動調査(卸売業・小売業）)をもとに本会作成。

16 出典：伊藤重男（2017）「大阪府小売業の構造分析－商業統計に基づく都市小売構造の比較分析－」p. 167

（４）地区別の事業者動向とビジネス機会[17]

管内各地区の人口増減と事業者数の増減を比較することにより、新たな地域内需要が生まれる可能性又は産業の空洞化が生じる可能性を検討する（表１２）。管内の各地区は事業環境、立地条件等が大きく異なることから、各地区の状況と小規模事業者の動向を加味して今後のビジネス機会を検討する。

表１２　人口増減と事業者数の増減の比較（空洞化状況分析）

		事業者数		事業者数の増加率	年率平均増加率		差
		2009 年（平成 21 年）	2016 年（平成 28 年）		事業者	人口	
吉備地区	建設業	114	100	-12.6%	-1.8%	1.4%	-3.2
	製造業	76	62	-18.3%	-2.6%		-4.0
	卸・小売業	272	252	-7.2%	-1.0%		-2.4
	サービス業	298	296	-0.5%	-0.1%		-1.4
	その他	198	160	-19.2%	-2.7%		-4.1
	地区全体	958	871	-9.1%	-1.3%		-2.7
高松地区	建設業	68	58	-14.7%	-2.1%	-0.3%	-1.8
	製造業	34	38	11.8%	1.7%		1.9
	卸・小売業	146	126	-13.7%	-2.0%		-1.7
	サービス業	181	202	11.6%	1.7%		1.9
	その他	36	43	19.4%	2.8%		3.0
	地区全体	465	467	0.4%	0.1%		0.3
足守地区	建設業	51	43	-15.7%	-2.2%	-1.6%	-0.7
	製造業	28	16	-42.9%	-6.1%		-4.6
	卸・小売業	66	51	-22.7%	-3.2%		-1.7
	サービス業	158	138	-12.7%	-1.8%		-0.3
	その他	23	16	-30.4%	-4.3%		-2.8
	地区全体	326	264	-19.0%	-2.7%		-1.2

①吉備地区

地区全体は、人口増加が年率 1.4%で増加するのに対して、事業者数は年率 1.3%減少している（-2.7 ポイント差）。製造業、その他の産業で差が大きい（事業者数の減少率が高い）。小売業では、岡山市、倉敷市のみならず、地元へも大型ショッピングセンターやスーパーが出店していることから、食品・家電などの小規模事業者が減少傾向である。美容業や女性向け各種サービス業、各種教室などの対面型ビジネスが増加傾向であったが、コロナ禍で打撃を受けている。今後吉備地区では、いずれの業種でもコロナ時代へのサービス

17 出典：経済センサス－活動調査（平成 21 年、平成 28 年）、岡山市行政区別住民基本台帳人口（平成 22 年 4 月末、平成 31 年 4 月末）をもとに本会作成。

へシフトするとともに地域の需要に対応していけるビジネスにはチャンスが生まれるものと期待される。

②高松地区

人口微減、事業者数は地区全体としてはほぼ横ばいで推移している。その中で、既に事業者数の比率が高く、増加してきているのはサービス業である。動物病院、整体業、学習塾などが増えている。今後は小規模企業性をより生かして地域の生活者のニーズに細やかに対応できる差別化されたサービスにチャンスが見いだせる。

小規模事業者の動向としては、「最上稲荷」参道の小売店や国道 180 号線沿いの飲食店の廃業が多く、小売業が減少している。建設業は、一般の土木建設業が減少する中、解体工事、足場工事、建設廃材処理といった専門職種の開業があり、建設業者数の減少に歯止めがかかっている。

③足守地区

人口減少率よりも事業所の減少率が上回っており、今後地域のビジネスに空洞化が生じる可能性がある。小規模事業者では、卸・小売業が減少している他は、ほぼ横ばいの状況である。地区内に地元百貨店系列のスーパーが出店するとともに、隣町の総社市・倉敷市へ購買力が流出している。地区の人口減少と同様に、事業主の高齢化と後継者難により廃業が危惧される地区である。

岡山西商工会地域経済動向調査

報告書

令和 3 年 11 月

岡山西商工会